

1 学校教育目標
「心豊かで たくましく 賢い風の子」の育成 < Chance & Challenge & Change >

2 学校経営ビジョン
(目指す学校像) ・読書活動を推進する学校 ・生き生きと活動する学校 ・共に学びあう学校 (目指す教師像) ・豊かな人間性を持つ教師 ・教育愛に燃える教師 ・指導力に富む教師 (目指す子ども像) ・感性豊かな子ども ・健康でたくましい子ども ・自ら学び考える子ども

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
①基本的な生活習慣及び学習習慣の育成を図る。 ②「魅力ある学校づくり推進事業」を中核として、全ての学習の基礎となる「読む力」を高めるために、さまざまな手立てを講じ、基礎的・基本的な学力の向上をめざす。 ③「魅力ある学校づくり推進事業」を中核として、地域人材を活用した体験活動を多く取り入れ、心豊かな人間性を養う。	(成果) ・国語科を中心とした読む力の向上では、すらすら読める児童の割合が増えた。目標が達成できた要因としては、各学年部のすらすら音読の目標を明らかにしたり、各学年部の児童の特性に応じて指導法を工夫したりするなど、校内研として学校全体で取り組んできたことが考えられる。また、家庭学習の指針となるリーフレット「家庭学習(宿題)のすすめ」を作成したことで、今後、より学校と家庭が連携を深めることができると思われる。 ・体験活動については、保護者・地域の方々の支援・協力のもとに、栽培活動だけにとどまらず様々な体験活動を仕組むことができた。体験を通して、子どもたちは故郷「中原」のよさを再認識し、関わってくださった方々に感謝の念を持つことができた。 (課題) ○学校教育方針については、機会あるごとに情報発信してきた。特に、認知度を高めるには、開かれた学校づくりと連動させ、教育活動における児童の姿を通して、更に実感できる工夫をしていきたい。 ○基礎的な学力の向上に向けて、全ての学習の基礎となる「読む力」をさらに高めたい。単にすらすら読める「音読」をめざすだけではなく、内容理解のためには言葉に立ち止まらせ、言葉に帰っていかせなければならない。「音読」はそのための手だての一つであることを再認識し、自分の考えを文章や言葉で表現する言語力を育成するために、言葉に着目した国語科教育を展開していきたい。(今年度は、説明文の指導を中心として取り組む) ○地域・保護者と連携した「魅力ある学校づくり推進事業」の取組により、子どもたちがいきいきと活動する学校づくりを進めていきたい。

5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	○ 学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・教職員、児童、保護者に周知する。認知度を教職員は100%、児童は90%以上、保護者は80%以上にす。	B ・重点目標の認知度は、教職員100%、児童90%、保護者73%であった。少しずつ認知度は高くなってきたが、引き続き保護者への周知が課題である。	・職員会議、全校集会、学校評議員会等で説明する。 ・学校便り、PTA総会、学級懇談会等で周知し、具体的取組を説明する。 ・学校ホームページで随時情報を発信する。 ・具体的目標等を校内に掲示する。	・機会ある毎に繰り返し便り等で情報発信しながら認知度が高まるように心がけ、ある一定の成果は上がった。 ・「学校便り」を学校HPに掲載したり毎日更新したりしたことも認知度を上げる要因になったと思われる。今後、さらに保護者・地域にわかりやすい形で発信するには、どのような工夫が必要であるか考えていきたい。
	○ 開かれた学校づくり	開かれた学校づくりの推進	・授業参観など学校開放期間中の来校者を、保護者80%以上、地域住民のべ40名以上にする。	B ・授業参観への保護者参加率71%、地域からの参加者のべ61名であった。	・保護者に、おたよりや児童の手紙を通して来校を促す。 ・地域住民には、各種団体の長に学校から参加依頼の文書を出したり、学校ホームページで早目に授業参観日の授業内容を公開したりして広報活動を行う。	・学校HPで授業参観の内容を知らせるようにしたり、地域の方々にもご案内の文書を配布したりした。その結果、地域からの参加は増えたが、毎回同じ方の参加が多かった。 ・保護者の参加率が伸びなかった理由の一つとして駐車場の問題が挙げられる。今後PTA企画委員会と協議しながら、より参観しやすくするための工夫をしていかなければならない。
教育活動	● 学力の向上	基礎基本的な学力の定着	・正しく計算できる児童の割合を80%以上にする。 ・説明文の内容を理解するための学び方が身についた児童の割合を70%以上にする。	A ・市販テストの実施結果から、正しく計算できる児童の割合が80%以上であった。 ・教科書の文章を読んで意味がよくわかる児童の割合が90%であった。	・算数タイムや授業における個に応じたプリントや習熟度別プリントの活用 ・低、中、高別に学び方の系統表を作る。 ・国語タイムで、語いを増やす活動を取り入れる。	・算数では、様々な学習プリントの工夫により、ほとんどの単元テストで期待得点80点を上回ることができた。また、T Tだけではなく、等質少人数授業、習熟度別授業など指導方法改善にも取り組んだ。 ・校内課題研修として「読む力」(説明文理解)の向上について研究を推進した。その結果、児童が見通しを持って学習を進めている姿や、文章構成までも意識して読み進めようとする姿がみられるようになった。
		家庭学習の習慣化	・家庭での学習時間を80%以上ができるようにする。 1,2年:20分以上 3,4年:40分以上 5,6年:60分以上	B ・低・中学年では、達成率が80%を超えているが、高学年では60%前後で、今後の取り組みが必要である。	・便り等で、家庭学習の意義、内容、時間等について呼びかけ、啓発する。 ・月に1回(1週間)強化週間を設け、カードに記入させる。 ・目標とする時間の使い方をクラスごとに決めておく。	・昨年度作成した「家庭学習(宿題)のすすめ」を活用し、その重要性を家庭に啓発してきた。その結果、低・中学年では、ある程度の成果が出ている。 ・家庭学習(宿題)の内容や取組ませ方について学校全体で検討することが必要である。
		読書活動の日常化	・週に2回の「朝の読書」で、進んで読書しようとする児童を90%以上にする。 ・家庭で10分間読書に取り組む児童が全校児童の90%以上にする。	B ・学校の「朝の読書」についてできていると答えた児童は90%で、家庭での読書は76%であった。家庭での読書習慣が課題である。	・学年に応じて読書を家庭学習に取り入れる。 ・読書月間を設ける。(夏休み、11月) ・読書カレンダーの取組をして、児童に自分の読書活動を振り返らせる。	・「読書月間」や「ファミリー読書月間」の取組をした。その期間は、意識的に読書をしている姿が見られた。また、「朝の読書」は、子どもの好きな時間として定着している。 ・月1度の「ファミリー読書」の取組を行っているが、達成状況は十分とはいえない。今後も家庭の協力を得ながら、読書時間の確保と読書習慣の定着に向けて啓発していく。

● 心の教育	友だちの光るところ探しの推進	・「友だちのきらきら探し」を全校で年に6回以上実施する。	B	・目標の回数を達成することはできなかったが、「きらきら探し」を継続するとともに、それを紹介することで児童の心の育成に寄与することはできたと考える。	・「クラスの友だち」「そうじの友だち」「登校班の友だち」などの視点を示し、友だちのよさに目が向くようにする。 ・「友だちのきらきら探し」で視点のよい作品を校内放送で紹介する。	・「友達のきらきら探し」の対象を1回ごとに変えることで、様々な友達によさに目を向けさせることができた。 ・年間3回程度、放送で子どもたちが見つけた「友達のひかるところ」を紹介することで、よさを見つけたり見つけてもらったりすることへの喜びを感じさせることができた。 ・1年間で6回の実施を計画していたが、5回の実施にとどまった。
○ 生徒指導	生徒指導の充実	・生徒指導目標としている「廊下で出会った人にあいさつをする」「トイレのスリッパを整とんする」「廊下は右側を歩く」の3つのめあてをそれぞれ80%以上の児童が達成する。	B	・定期的な校内巡回で、達成状況を見ると、それぞれの項目ともおおむね達成できている。	・朝会や学級指導の場で、具体的に指導する。 ・生徒指導打合せ会で、情報交換をして共通理解を図る。	・月の生活目標を、あいさつ・トイレスリッパの整とん・廊下歩行の3つを基本として繰り返し指導したことによって、児童の意識が継続するようになった。 ・あいさつについては、地域でのあいさつが少ないという指摘があり、校外で進んであいさつすることができるように指導する必要がある。
● 保健・体づくり	食育を含めた健康教育の充実	・「早寝・早起き・朝ご飯」の意識を児童・保護者とも95%以上にする。 ・朝食や給食をしっかりと食べる児童を95%以上にする。	A	・「早寝・早起き・朝ご飯」の意識は昨年度よりも高まったが、朝食の内容に関しては、三つの食品群をバランス良くしっかりと食べているとは言えない。	・学年朝会で生活習慣の大切さについて話をする。 ・「生活ふりかえりカード」を実施し、「早寝・早起き・朝ご飯」への意識を高める。 ・食事の大切さについて、学級活動等で具体的に指導する。	・アンケートの結果から、94.2%の保護者が家庭で「早寝・早起き・朝ご飯」の声をかけをしており、その大切さは保護者にも浸透していると言える。 ・「朝食振り返りカード」を使って朝食を見直すことで、児童も保護者も問題点に気づくことができた。 ・朝食の喫食率は97%であるが、野菜不足の傾向が見られる。改善に向け、引き続き家庭との連携を図りたい。
○ 校内環境美化	掃除の時間の充実	・学期ごとに掃除反省カードに児童相互や個人で記入することにより、意識の向上を図る。 ・縦割り掃除を無言で実施できた日を年間60日以上にする。	A	・反省表に基づいた振り返りにより、目標達成に近づいた。無言掃除については80%以上の児童が達成しているが、集合や教室に戻る時に騒がしいことが多い。 ・ビデオによる重点箇所掃除の指導後、掃除の仕方がよくなった。	・進行マニュアルに従って校内放送をし、掃除のがんばりを称賛する。 ・掃除反省カードを毎学期記入し、意識の向上を図る。 ・学期に1回、掃除月間を設け、場所指定をして重点的に取り組ませる。	・縦割り掃除で高学年は責任感が育ち、下級生は掃除の仕方が分かるようになった。また、前期の縦割り掃除に比べて、静かにきれいに掃除ができるようになってきた。 ・一定期間学級掃除を設けたことで、学年相応に具体的に指導することができた。来年度も適宜入れていきたい。 ・掃除への意欲を維持し向上させるために、さらに適切な助言と指導の工夫が必要である。
● 低学年学習環境の改善充実	基本的な生活習慣・学習習慣の育成	・時間を守る。 ・学習道具を揃える。 ・宿題を忘れない。 ・人の話をよく聞く。 ・姿勢を正す。 ・挨拶返事をきちんとする。 上記について80%以上の児童が達成する。	A	・毎月の「身につけたいこと」の反省を親子ですることにより、意識付けを図ることができた。	・話を聞く際の約束ごとを決める。 ・家庭学習の習慣を身につけさせるために、毎日課題を出す。 ・毎月の親子反省を継続して行う。	・学習面及び生活面の各項目ともおおむね達成できた。特に、学年TTを選択した1年生においては、十分達成できた。各学年で、放課後に情報交換をしながら成果や課題について協議した。お互いが連携協力して指導にあたったことで基本的な生活態度や学習態度が身に付いてきた。さらに、家庭との連携を密にして生活・学習習慣の徹底を図っていった。
○ 魅力ある学校づくり推進事業	地域と連携した体験活動の充実 よりよい学習習慣や生活習慣の確立と基礎学力の向上 「読む力」を中核とした学力の向上	・地域人材を活用した体験活動の回数を維持(年間7回)して地域との連携を深めるとともに、学力向上にも結び付ける。 ・ワークショップ型の研修会及び校外研修報告会を4回実施する。 ・講師招聘による授業力向上のための職員研修会を3回実施する。 ※学力については「学力の向上」の欄に記載	A	・地域人材を活用した体験活動については7回実施することができ、目標の達成をみることもできた。 ・校外研修報告会や講師招聘による職員研修会を目標回数実施し、授業力向上をみることもできた。	・校内研究を核として、体験活動で学んだことが国語以外の他教科でも生きた学力として働くような手だてを講じる。 ・「家庭学習の手引き」を具体的に活用し、学校と家庭が連携して児童の学力向上に努める。 ・Q-Uテストを実施し、その結果を正確に分析することにより、児童が落ち着いて学習できる支持的な学級の風土作りに更に努める。	・「学校づくり委員会」を開催し、学校と地域が連携した体験活動を仕組むことができた。その中で、地域への愛着を持たせるとともに、指導していただいた方々に感謝する気持ちを持たせることができた。 ・義務教育9年間を見通した小中連携による「家庭学習のすすめ」を作成した。この手引きを元に、学校と家庭の連携をさらに強めたい。 ・Q-Uテストを実施して、その結果を考察したことにより、学力向上の土台となる支持的な学級の風土づくりに努めることができた。

6 総合評価	<p>本年度も、「魅力ある学校づくり推進事業」を中心に据え、学力と豊かな心の2つの関係を車の両輪と考えて教育活動全体を推し進めてきた。その結果、知育・徳育・体育(食育)のバランスのとれた児童の育成につながったと思われる。</p> <p>・重点目標①については、「中原型授業」の中で必須5項目を担当等が意識して実践したことにより、落ち着いた態度で学習に取り組ませることができ、基本的な学習習慣の育成を図ることができた。基本的な生活習慣に関しては、高学年になるにつれてできるようになってきているが、やはり家庭の協力が不可欠である。</p> <p>・重点目標②については、校内課題研修として「読む力」(説明文理解)の向上について研究を推進した。その結果、児童が見通しを持って学習を進めている姿や、文章構成までも意識して読み進めようとする姿がみられるようになった。目標が達成できた要因としては、各学年部の目標を明らかにしたり、各学年部の児童の特性に応じて指導法を工夫したりするなど、学校全体で取り組んできたことが考えられる。また、家庭学習の指針となる「家庭学習(宿題)のすすめ」を小中連携で作成したことで、今後、義務教育9年間を見通した学校と家庭の連携がさらに深まると思われる。</p> <p>・重点目標③については、保護者・地域の方々の支援・協力のもとに、栽培活動だけにとどまらず様々な体験活動を仕組むことができた。体験を通して、子どもたちは故郷「中原」のよさを再認識し、関わってくださった方々に感謝の念を持つことができた。</p>
--------	---

7 次年度への課題・改善策	<p>○学校教育方針については、機会ある毎に情報発信をしてきた。特に、認知度を高めるには、開かれた学校づくりと連動させ、教育活動における児童の姿を通して、実感できる工夫をしていきたい。</p> <p>○基本的な生活習慣及び学習習慣については、低・中・高学年の発達段階に応じた指導を行い、さらに確実な定着を図りたい。</p> <p>○基礎的な学力の向上に向けて、全ての学習の基礎となる「読む力」をさらに高めたい。内容理解のためには言葉に立ち止まらせ、言葉に帰っていかせなければならない。児童の意欲を喚起し、興味・関心を持って学習に取り組ませるために、様々な手立てを講じ、言葉に着目した国語科教育を展開していきたい。</p> <p>○地域・保護者と連携した「魅力ある学校づくり推進事業」の取組により、子どもたちがいきいきと活動する学校づくりを進めていきたい。</p>
---------------	---